

参議院議員 外山イツキ 通信号外

東北地方太平洋沖地震からの復興に向けて

○聞き手…三月十一日に三陸沖を震源とするマグニチュード9・0の地震が発生し、宮城県、岩手県、福島県を中心に甚大な被害をもたらしました。今回の震災に対する政府・民衆の取り組みについてお聞かせください。

○外山…地震発生時は、私も質問者で、全閣僚揃っての決算委員会に出席しておりました。発生直後に決算委員会は中断され、首相官邸において全閣僚揃っての会議が開かれ、す



ぐに対策本部が立ち上げられました。その七時間後には宮城県に市村浩一郎国土交通政務官などが入り、宮城県庁内に現地対策本部を立ち上げています。また岩手県、福島県にもそれぞれ現地対策本部を設置しています。初めの三日間は道路や通信手段が津波などの影響で寸断され、被災にあつた自治体との連絡も取れない状況にありました。その為、避難所や被災者の数がなかなか把握できませんでした。その後は道路、港、空港などかなりのスピードで復旧させ、まだ十分ではないですが、物資など行き渡りつつあります。現在はまだ把握出来ていない避難場所があるとの情報を元に、自衛隊、警察などでローラーをかけ捜索をしています。

○聞き手…先日外山議員は被災地である宮城県に入られたとお聞きしました。震災直後に現地入りした目的をお聞かせください。

○外山…現在民主党内には「災害ボランティア準備室」が設置されています。通信等が遮断されている中、正確な情報収集の必要性が求められており、政府と自治体との連携が上手くいっているのか、災害ボランティアの派遣や物資を運ぶにあたって、どのような問題が起こっているのか、その実態調査が主な目的でした。また、実際に災害現場を見ることは、

今後の対策を講じる上で非常に役に立つということもあり今回の現地入りとなりました。



○聞き手…実際に現場を見た感想はいかがでしたか？

○外山…それまでは当然映像でしか見ていなかったのですが、想像を絶する状況が広がっていました。私は過去にユーゴスラビアやコンボなど紛争地域に入ったこともありますが、比較にならないほどの惨状だと感じました。

(裏面へつづく)